

令和 5 年 10 月 3 日現在

機関番号：25403
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：18H00786
研究課題名（和文）近代ヒスパニック世界における文書ネットワークの成立・展開・変容（衰退）過程の究明

研究課題名（英文）The Investigation of the Process of Formation, Development and Transformation (Decline) in the Modern Hispanic World

研究代表者
吉江 貴文 (Yoshie, Takafumi)

広島市立大学・国際学部・准教授

研究者番号：70405489
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、15世紀末以降、海外征服・植民地化事業に乗り出したスペイン帝国が世界規模で築いた文書ネットワークの成立・展開・変容（衰退）の過程と植民地社会におけるその実態について、文化人類学、歴史学、識字・リテラシー研究、史料論等の知見を踏まえた学際的な視点から究明を行った。とりわけ本研究では、スペイン帝国において生産・管理された文書の物質的側面、スペイン統治下の諸地域・機関において生産された文書の流通プロセスとそれを支えたメカニズム、帝国の周辺世界に生きる多様な主体が果たした役割、の3点に焦点を当て、近代的集権国家・広域帝国の存立基盤について文書管理実践論の立場から明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

スペイン帝国の統治原理については、これまで帝国史・国家論、経済史などの分野を中心に議論が展開されてきたが、そうした研究における関心の在り方は、いずれも国家レベルのマクロな公的制度の分析や組織論・言説論を中心に進められてきた。それに対し、本研究は、人間と文書メディアの織り成す実践と交渉の過程に焦点を当て、植民地社会におけるローカル・レベルの事例を踏まえ、文書管理実践という微視的な視点から近代的集権国家・広域帝国の存立基盤にアプローチをすることにより、スペイン帝国の成り立ちをめぐる既存の研究に理論的・方法的刷新をもたらす契機となった。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the process of formation, development, and transformation (decline) of the worldwide document network established by the Spanish Empire, which embarked on a colonization project from the end of the 15th century onward, and its reality in colonial society, from an interdisciplinary perspective based on knowledge from cultural anthropology, history, literacy studies, etc. In particular, this study focused on (1) the material aspects of documents produced and managed in the Spanish Empire, (2) the distribution process of documents produced in various regions and institutions under Spanish rule and the mechanisms that supported it, and (3) the roles played by various actors in the empire's peripheral world, in order to clarify the foundation of the existence of the modern empire from the perspective of document management practices.

研究分野：文化人類学

キーワード：スペイン帝国 文書ネットワーク ヒスパニック世界 文書管理実践論 近代 リテラシー

1. 研究開始当初の背景

人間社会における文書使用の意義をめぐる議論は、1960年代に始まる「リテラシー大分水嶺論争」を契機に文化人類学を含む学際的な領域で長年にわたり繰り広げられてきたが、従来の議論は、文書使用の過程を「話し言葉／書き言葉」といった二項対立の図式に還元して捉えようとする言語中心主義的な視点に囚われる傾向が強かった。

それに対し、本研究プロジェクトでは、従来のリテラシー研究を発展的に継承するアプローチとして文書管理実践論を提唱し、文書に立脚した近代的集権国家・広域帝国（即ち、スペイン帝国）の形成・発展・変容のプロセスに着目したうえで、文書管理実践論の視点から帝國的構成体の存立基盤を解明し、1960年代以来継承されてきた文書使用の意義をめぐる学際的論争に方法論的な刷新をはかる試みとして構想された。

2. 研究の目的

本研究は、15世紀末以降、スペイン帝国が築いたグローバルな文書ネットワークの成立・展開・変容（衰退）の過程と植民地社会におけるその実態について文書管理実践論を基軸に、文化人類学、歴史学、識字・リテラシー研究、史料論、人文情報学（DH）などの実践的アプローチの知見を結集することによって究明を図ることにある。それにより、中世までヨーロッパの辺境にすぎなかったスペイン王国を世界規模の一大帝国へと押し上げた原動力について文書研究の視座から究明し、文書主義に支えられた近代世界の由来を実証的な視点から問い直すことが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究におけるアプローチの焦点は、以下の3点にまとめられる。

- ① スペイン帝国において生産・管理された文書の物質的側面に関わる諸相の究明
- ② スペイン帝国内における文書流通プロセスの究明
- ③ 帝国の周辺世界における文書ダイナミズムの究明

4. 研究成果

（1）スペイン帝国において生産・管理された文書の物質的側面に関わる諸相については、帝国支配下の諸地域・機関において生産・管理された文書群の実態について、物質性のレベルから総合的に把握することを試みた。具体的には、文書の素材や体裁、書面の構成やレイアウト、書類の綴り方や仕分け法、文書の保管形態や維持方法など、モノとしての文書の在り方にまつわる諸相に着目し、それぞれの文書メディアの成り立ちや支持体としての特性を物質的な側面から明らかにした。その結果、例えば、帝国内に流通する司法行政文書の様式やレイアウトなどの物質的な特性を規定する上で、スペイン本国において出版される規範的文書の影響力が一定程度認められるいっぽうで、インディアス植民地社会の状況にあわせて文書フォーマットの改変が行われるケースもみられるなど、スペイン本国と植民地社会、中心と周辺のあいだで文書管理の在り方をめぐる交渉と対話の複雑なプロセスが成り立っていた実態を明らかにすることができた。

（2）スペイン帝国内における文書流通プロセスについては、領域内の諸地域・機関において使用されていた文書群が、具体的にどのような行程をへて生産され、どういった領域に流

通していたのか、またそれらの流通・保管の過程には誰がどのような関わり方をし、それらがいかなる仕組みのもとで機能していたのか、といった文書循環サイクルの成り立ちに関わる諸相に焦点を当て、それぞれの文書の生産・保管・参照・廃棄等の局面からなる連続的なプロセスについて明らかにした。その結果、例えば、インディアス植民地とスペイン本国（王室）を結ぶ下意上達式の稟議制的な文書伝達システムが構築されることによって、帝国内における文書を媒介とした政治的意志決定の仕組みが機能していたことや、イエズス会の構築した独自の情報ネットワークなど、帝国行政にとどまらない、複数の領域に跨がる文書流通システムが域内において機能していた様相を明らかにすることができた。

（3）帝国の周辺世界における文書ダイナミズムとして、植民地化以降、帝国政府の行政司法制度を介して文書的世界への参入を試みた先住民や、文書管理をめぐる独自の試行錯誤を展開した商人層など、帝国世界の周辺を構成するさまざまな主体がどのような形で文書ネットワークの運用過程に関わっていたのかを、ローカル・レベルでの事例を踏まえながら究明することを試みた。その結果、例えば、教会裁判の刑事訴訟制度を介して聖職者の非合法的行為に対する弾劾を行い、文書的世界への積極的な参入を試みた先住民層の実態や、商業裁判所を介して独自の司法権を確立しながらも、文書管理という面において帝国行政との交錯地点に位置づけられていた商人層の存在など、スペイン帝国の文書ネットワークを支えた様々な主体の役割について実証的な視点から明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 清水有子	4. 巻 834
2. 論文標題 イエズス会日本年報の活用をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水有子	4. 巻 688
2. 論文標題 朝尾直弘『鎖国』の現在	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 61-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水有子	4. 巻 25
2. 論文標題 フェリペ2世の東アジア政策 スペイン帝国の海外情報収集と分析の特性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 洋学	6. 最初と最後の頁 31-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tadashi Obara	4. 巻 102:4
2. 論文標題 Isabel de Velasco, menina de las Meninas, y los indios del antiguo senorio de Zinacantan en 1642-1659	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hispanic American Historical Review	6. 最初と最後の頁 581-609
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 真鍋陸太郎、中村雄祐
2. 発表標題 スペイン植民地帝国の文書流通の地理情報の可視化
3. 学会等名 地理情報システム学会第28回学術研究発表大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水有子
2. 発表標題 フェリペ2世統治期フィリピン総督文書の処理過程
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会第40回定期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤晃
2. 発表標題 アマゾンの「文字化された都市」 モホスのイエズス会ミッションの洗礼簿
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会第40回定期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉江貴文
2. 発表標題 植民地都市ラパスにおける公証人の文書作成術と公証人マニュアルの影響
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会第40回定期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伏見岳志
2. 発表標題 商業文書と帝国行政のネットワーキング
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会第40回定期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伏見岳志
2. 発表標題 近世スペイン語圏の商業帳簿
3. 学会等名 スペイン史学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 吉江貴文 編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 悠書館	5. 総ページ数 392
3. 書名 近代ヒスパニック世界と文書ネットワーク	

1. 著者名 齋藤晃 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 522
3. 書名 宣教と適応 グローバル・ミッションの近世	

1. 著者名 網野 徹哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 岩波講座世界歴史第14巻 南北アメリカ大陸～17世紀	

1. 著者名 伏見岳志	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 416
3. 書名 はじめて学ぶアメリカの歴史と文化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国際研究集会“Panel 2023 El mundo hispanico moderno y su universo documental, siglos XVI-XIX (Buenos Aires, Argentina)”における研究報告 Takafumi Yoshie, “El mundo hispanico moderno y su universo documental, siglos XVI-XIX.” Akira Saito, “La reduccion sobre el papel: analisis de los libros de bautismo de las misiones jesuiticas de Moxos (actual Bolivia).” Takafumi Yoshie, “La practica de documentos de los escribanos y formularios notariales en los siglos XVI-XIX, La Paz.” Takesi Fusimi, “Reformar un archivo trbunal: el caso del Real Tribunal del Consulado de Mexico en el siglo XVIII.” Tetsuya Amino, “Las causas eclesi&#225;sticas de “capitulos en el siglo XVII: su origen y desarrollo.”</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	清水 有子 (Yuuko Shimizu) (00727927)	明治大学・文学部・専任准教授 (32682)	2022年度(再繰越年度)は削除。

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	齋藤 晃 (Saito Akira) (20290926)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授 (64401)	
研究分担者	網野 徹哉 (Amino Tetsuya) (60212578)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	中村 雄祐 (Nakamura Yusuke) (60237443)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授 (12601)	
研究分担者	小原 正 (Obara Tadashi) (60715035)	慶應義塾大学・経済学部（日吉）・准教授 (32612)	
研究分担者	伏見 岳志 (Fusimi Takesi) (70376581)	慶應義塾大学・商学部（日吉）・教授 (32612)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	WILDE GUILLERMO (WILDE Guillermo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Panel 2023. El mundo hispanico moderno y su universo documental, siglos XVI-XIX (Buenos Aires, Argentina)	開催年 2021年～2021年
--	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------